

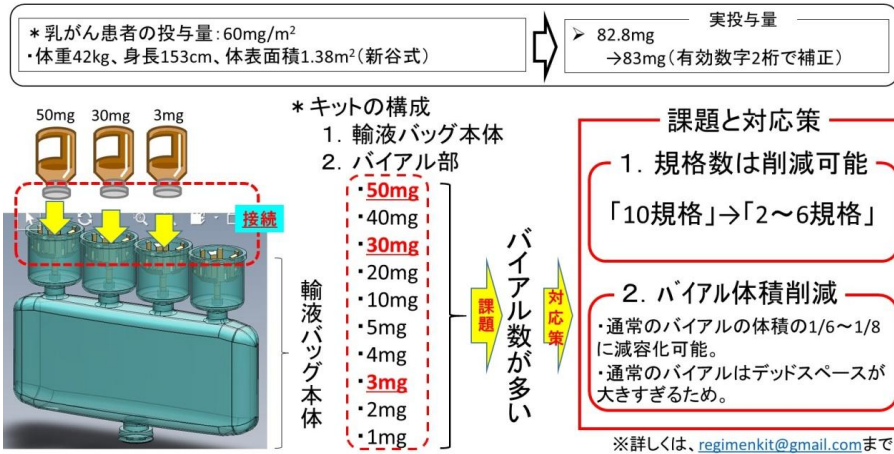
#### 4. デザイン例

##### (1) デザイン例①：操作方法

- ✓ デザイン①の構成は、1. 上部接続ポートが4つある輸液バッグ (パーツ A)、2. 1mg, 2mg, 3mg, 4mg, 5mg, 10mg, 20mg, 30mg, 40mg, 50mg のバイアル各 1本 (パーツ B)、3. 外袋①、4. 外袋②、の4つになります。

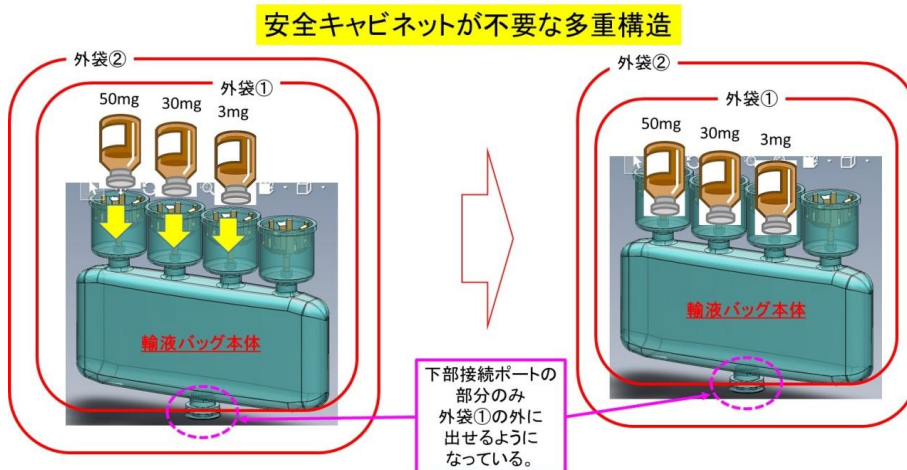
身長 153cm, 体重 42kg, 体表面積 1.38m<sup>2</sup> (新谷式) の乳がん患者にドセタキセルを投与する場合、投与量は 60mg/m<sup>2</sup> になるので、60kg×1.38m<sup>2</sup>=83mg 調製することになります。この時調剤に必要なバイアルは、50mg, 30mg, 3mg のバイアル各 1本になります (図表 1)。

図表 1：デザイン例① (ステップ①)



- ✓ 次に、50mg, 30mg, 3mg の各バイアル 1本と上部の 4つのポートを有す輸液バッグを外袋①に入れ、熱シールやジッパー構造等で密封します。上部に 4つのポートを有す輸液バッグには、点滴ラインに接続するポートが一つ下部にあり、これは外袋①の外に出るものの、密封構造になっており、バイアルと上部ポート部の接続時に万が一に内容物が漏れたとしても、外袋①の外には漏れださない構造になっています。そして、外袋①に入ったキット全体を外袋②に入れ、熱シールやジッパー構造等で更に密封します。この状態で、外から 3つのバイアルを接続ポートに接続します (図表 2)。使用するときには、抗がん剤を含む内容物が漏出していないことを確認し、外袋②から外袋①ごとキットを取り出し、病室に払い出します。

図表 2：デザイン例① (ステップ②)



以上